

C22c ぐんま天文台の教育普及活動

濤崎智佳(ぐんま天文台)、他ぐんま天文台スタッフ

県立ぐんま天文台は、平成11年開館以来4年目を迎えたが、研究活動とともにさまざまな教育普及活動を展開している。定常的に行われている「施設見学」「一般観望」の他現在行っているあるいは計画中のいくつかの特徴ある活動を紹介する。

一般の研究体験型活動として2000年度に実施された「観測研究講座」は、一般の参加者とともにぐんま天文台65cm望遠鏡を使用して散開星団の測光観測を行い、中間年齢の星団を探查するというものであった。ここで得られた結果は2001年秋の年会で報告(長谷川他、R04b)、さらに欧文報告に投稿中であり、単に研究活動を疑似体験するだけにとどまらず、この種の活動としては非常に質の高い研究結果となった。さらに2001年度は「ぐんま天文学学校」としてより多くの参加者を募り、CCDの特性を調べる、分光観測を体験する、銀河の形態を観察するという3つのコースを行った(大林他、2002年春季年会 Y26b)。これらの参加者は30代～50代の社会人が多数を占めており、この年代での需要も多いことが示唆される。また、高校生等の参加はなかったが、これは公共交通機関によるアクセスがないこと等によるものと考えられる。2002年度は一般向けに加え、さらに小中学生及び高校生を対象とした「少年少女研究員」という体験型活動を計画している。

その他、望遠鏡やCCDカメラの取り扱いの講習を行う「望遠鏡操作資格取得講習会」を行っている。講習会を受講すればぐんま天文台の機材を利用して観測を行うことができるようになっており、この望遠鏡操作資格を持つユーザーへの情報提供、情報交換等の場である「ユーザーズミーティング」の開催等も行っている。今年度はこれらのユーザーによる成果発表会等も予定している。